



## 【図書館歳時記】「伝統の平の七夕祭り ——薬玉と吹き流し、七夕飾りが風に揺れる」

いわきの七夕祭りは月遅れ、7月ではなく、8月に行われる。

ここ3、4年の間で、平の七夕祭りの歴史が明らかになってきた。昭和5（1930）年、仙台風の七夕飾りが平の町通りに飾られ、その後、七夕飾りをするところが徐々に増え、昭和9（1934）年には、本町通りがアスファルトで舗装されるのに伴い、江戸時代から行われてきた「松焚き（町の通りで大きな松明を燃やす行事）」ができなくなり、それに代わるものとして、七夕祭りが平のまちの行事として、本格的、かつ、盛大に行われるようになった。その後、昭和13（1938）年から昭和22（1947）年までは戦争のため、開催されなかったが、昭和23（1948）年には復活、現在まで続いている。

いわき総合図書館長 夏井芳徳

## おすすめの本紹介

### 「とのさまと海」

三遊亭白鳥 || 著 あかね書房

10年間、1匹も魚が釣れていないという、釣りがヘタなお殿様のために、なんとか釣らせようと、家来が釣り具屋で手に入れたのは、必ず釣れるというなにやら怪しげな釣り竿で…。



新作落語のトップランナー・落語家 三遊亭白鳥による奇想天外な作品を、アニメーター・小原秀一が絵本化した新作落語絵本です。原題の「殿様と海」やそのストーリーは、ヘミングウェイの「老人と海」のパロディとなっており、落語的な作品となっています。子どもたちはへのへのへ顔の殿様を変顔として楽しみ、大人はストーリーを楽しむ。親子で楽しめる作品です

### 「子どもつなひき騒動」

宝井琴調 || 文 ささめやゆき || 絵 福音館書店

この本は、江戸時代、名奉行とうたわれた、南町奉行大岡越前守忠相の名さばきの講談を絵本にしたものです。母ひとり子ひとり、貧しいながらも楽しく暮らしていたお里さんと娘のお花。



一方、お花の父親の甚兵衛さんの再婚相手のお絹さんには子どもがおらず、お花が欲しくてたまりません。ひとりの子どもをめぐり、おたがいに自分のものだと言い張るふたりの母親を、どちらが母として子どもの情愛があるのか、子どもの手をひっぱることを提案した、大岡様の解決方法とは…。大岡裁きが人情味あふれる講談絵本です。

### 「高校図書館デイズ 生徒と司書の本をめぐる語らい」

成田康子 || 著 筑摩書房

この本は、札幌南高校の図書館を訪れた13人の生徒たちが、本を介して司書の先生と語り合ったものをまとめた1冊です。



遠距離通学でスマホ読書をしていた生徒が、活字のやさしさを感じ「言葉を味わうこと」を楽しんでいく様子として、「本を読んでいるときは、電車の居心地が良くないことも気にならなくなり、本に書いてある光景が頭に映し出されているような状態になる」という感覚を味わっているのが印象に残ります。高校生が司書の先生と語る青春と本とのかけがえのないお話です。

### 「簡素な生活」

シャルル・ヴァグネル || 著 山本知子 || 訳 講談社

19世紀末にフランスで出版され、欧米でミリオンセラーになった本の邦訳です。産業革命後の工業化によって社会全体が豊かになる一方で、貧富の差が広がりつつあった当時、著者は、人間らしさを「簡素な生き方」「簡素な精神」にあるとして、物質的な豊かさや、それに伴う虚栄心や権威欲などにとらわれない人間になるための考え方を説きました。120年後、工業化に情報化が加わった複雑な時代にあって、再び世に出された、人間の生き方を説く、今も色褪せない道徳の本です。



## 貸出 TOP10

1	祈りの幕が下りる時	東野圭吾    著	講談社
2	人魚の眠る家	東野圭吾    著	幻冬舎
3	羊と鋼の森	宮下奈都    著	文藝春秋
4	夜行観覧車	湊かなえ    著	双葉社
5	海に見える理髪店	荻原浩    著	集英社
6	九十歳。何がめでたい	佐藤愛子    著	小学館
7	天才	石原慎太郎    著	幻冬舎
8	夢幻花	東野圭吾    著	PHP 研究所
9	アンマーとぼくら	有川浩    著	講談社
10	虚ろな十字架	東野圭吾    著	光文社

## 予約 TOP10

1	蜜蜂と遠雷	恩田陸    著	幻冬舎
2	コンビニ人間	村田沙耶香    著	文藝春秋
3	九十歳。何がめでたい	佐藤愛子    著	小学館
4	騎士団長殺し 第1部	村上春樹    著	新潮社
5	素敵な日本人	東野圭吾    著	光文社
6	劇場	又吉直樹    著	新潮社
7	アキラとあきら	池井戸潤    著	徳間書店
8	騎士団長殺し 第2部	村上春樹    著	新潮社
9	みかづき	森絵都    著	集英社
10	コーヒーが冷めないうちに	川口俊和    著	サンマーク出版

## 知っていますか？便利な図書館機能

### 【図書館ホームページの「郷土資料のページ」を知っていますか？】

図書館ホームページでは、「郷土資料のページ」を設けています。

郷土資料のページでは明治期からの新聞や古地図、絵はがき、当館で開催した企画展示の記録などをデジタルデータで公開しています。特にいわき民報については、昭和21年2月5日の発刊から昭和50年（平成29年8月現在）までの紙面を全てデジタルデータ化し、閲覧やダウンロードが可能となっています。なお、デジタルデータは随時作成し、今後も追加していく予定です。

過去のいわき市であった事柄などを調べるには、便利な「郷土資料のページ」がおススメです！



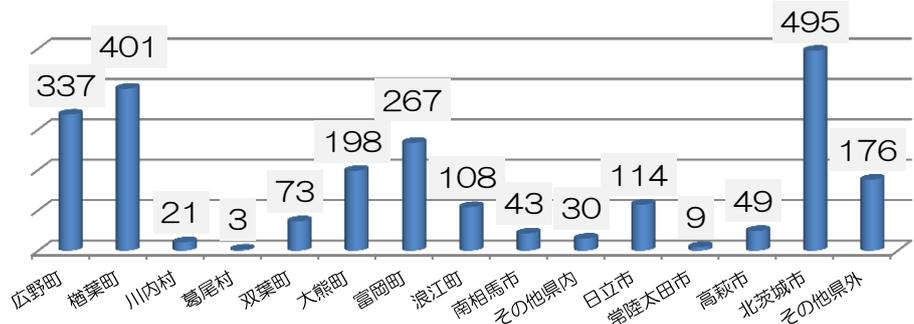
## シリーズ 数字で見えるいわきの図書館

### 【広域利用登録者】

平成28年度 2,324人

東日本大震災後、隣接市町村以外の自治体から避難された方や、復旧復興事業に従事する市外他県の方にも対象を広げました。相互利用協定によって、茨城県北の3市も加わり、貸出サービスの利用が増えています。

個人有効登録者数の市外自治体別内訳（人）



## 図書館豆知識

### 国立国会図書館・国際子ども図書館に行ってみよう！

国立国会図書館は、昭和23年（1948年）に設立された日本における唯一の国立図書館で、一般の方でも利用できる図書館としては、日本で一番大きい図書館です。満18歳以上の人なら誰でも利用でき、蔵書数は図書だけでも約1千万冊と途方もない量です。また、18歳未満の小中学生は、国際子ども図書館を利用することができます。国際子ども図書館は平成12年に、国立初の児童書専門図書館として開館し、その蔵書数は約37万冊です。夏休みを利用してご家族で国立図書館へ行ってみたいはいかがでしょうか？

